

---

# 魔法少女リリカルなのは -easy-

スルメ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは - e a s y -

### 【Nコード】

N46310

### 【作者名】

スルメ

### 【あらすじ】

高町なのはは凡人である。

それは、他人から見れば不幸な人生に見えたが、本人は幸せだった。しかし現実には容赦無く、彼女に理不尽と無理を叩きつけていく。

魔法少女リリカルなのは - e a s y -、君は……生き残る事ができるか？

## はじめにと言つ名の注意事項

始めまして、スルメと申します。

まだまだ初心者なので色々と不手際があるかと思いますが、その時はご指摘の程よろしくお願いします。

今回書くのは『魔法少女リリカルなのは』の、アナザー版です。

主要イベントは変わらないと思いますが、変わるかもしれません。

主要キャラが死ぬかもしれないですね。むしろ、何人生き残るかが正直不安でならないです。

……ああ、なのはが一番死ぬ可能性が高いかと。

今回、高町なのはが無力キャラと化しています。

なのは最強、なのはマンセーな方は、今すぐブラウザの戻るを選択してください。

なのはの力の位置付けとしては、ユーノ以上、クロノ以下となっております。

あと、上級魔法が殆どつかえません。スターライトブレイカー？なにそれおいしいの？

あと、原作のアイテムがちよろつと登場するかも？しない可能性もあります。

それでは、めくるめくなのはの世界へ君もレッツゴー〜しちゃって下さい。

それでは〜

## プロローグ

高町なのは凡人である。

運動会では1〜3位に入ることには無くてもドベじゃ無かったし、成績も秀才と言う訳じゃなかったけど、予習と塾に通う事で何とかの上程には維持できていた。

天才じゃ無いけど、無能でも無い。当たり障りの無い彼女はきつと幸せな方だったのかもしれない。

優秀でも無能でも叩かれる現代社会に置いて、彼女は目立たないと言うことで自分の身を守るのだから。

しかし、得に特技や自慢できる能力を持たなかった彼女の唯一といてもいいそれは、彼女の中の環境によって意味を成さなかった。むしろ、最悪といっても過言ではないだろう。

彼女に非は無い。

あるとすればそれは、彼女の家族が非凡過ぎたと言うことだろう。父親は古流剣術における免許皆伝の腕で、母親は実家で店を開ける程の腕を持つ菓子職人。

そんな非凡の家庭に生まれながら、二人の子供である彼女は凡人でしか無かった。

彼女の兄や姉も同じく凡人ならまだ少しは救いがあっただろうが、現実はそのなりに甘くは無かった。

きつと、君は大器晩成型なんだよ。

小学生になつて一年とちよつと過ぎた時に、彼女の担任を受け持った先生からなのはそう告げられる。

それほど、周りにとって彼女の凡人さは異様に見えたのだろう。

幼い彼女にそんな周りの考えなど知るよしも無い彼女は、その先

生の言葉を額面通り受け取って元気に答えるのだった。

元々周りと自分を比べるとという事を考えた事も無い彼女は、自分が家族の中で唯一凡人であると言う事を気にかけてもいなかった。

興味が無かったといってもいいだろう。

彼女にとつて家族は家族であり、自分は自分でしか無いのだから。しかし、本人がどう思おうが周りにとつて彼女が異質である事に変わりがなく、時間と共に彼女に対する風当たりは強くなる一方だった。

兄ならもつと上手くやれただろう。

姉ならこんな事に悩まなかった。

そう言った声が彼女の耳にも聞こえるようになっていく。

流石に面と言われた時は反論したが、彼女はそれ以外に何の対応もしなかった。

おそらく、気にもかけていなかったのだろう。

そんな考えが出来たのは彼女の性格もあつただろうが、アリサとすずかと言う二人の存在も強いだろう。

なのはに言い寄る人々を追い払う内に、いつの間にか友達になっていた二人がいなければ、彼女の性格はいびつに捻れ曲がっていたかもしれない。

可能性としては低いものだったのかもしれないが。

彼女――高町なのは凡人である。

それは、周りからすれば不幸だったのかもしれない。

しかし、本人は一度として不幸と思つたことはなく、むしろ幸福の中にいたのだろう。

……この世に神がいるとしたら、そいつは余程ハッピーエンドが嫌いに違いない。

彼女が小学3年になった時、それは起きたのだった。

今まで考えもしなかった事は、いつかは考えないといけない事なのかもしれない。

でも気にしなければ、そう思わなければ私は問題無いと思っていた。

でも現実には厳しくて、突然突き付けられた問題は目を背ける事も許されない。

魔法少女リリカルなのは - e a s y -、始まります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4631o/>

---

魔法少女リリカルなのは -easy-

2010年10月23日05時24分発行